

玄海だより

玄海原子力発電所
Vol.246
2023年3月



大浦の一本桜(唐津市肥前町)

肥前町の秘密

唐津上場商工会青年部
(たいようアウトドア代表)
古川 陽進

観光資源に恵まれた上場四町の中でも特にのどかな風景が残っている肥前町ですが、他の町に比べるとあまり知られていないイメージではないでしょうか。動向調査においても呼子鎮西エリアに観光客が集中していることが分かっています。

ただし、数字だけでは見えてこないポイントがあります。旅慣れた旅行者の動きです。混雑する場所を避け、あまり知られていない場所を開拓する楽しさを知っている旅行者が肥前町には訪れています。飲食店で待たずに食事ができ、マニアが絶賛する温泉には貸し切りで入ることもできます。「教えたくもあり、教えたくもなし」という、とっておきの場所が見つけられる町なのです。

カナダ在住のシェフが帰国した際は必ず足を延ばす牡蠣小屋、温泉マニアが通う美肌の湯、旅好きをよるこばせる料理店、全国の釣り人を魅了する海。

私たちにとっては見慣れた当たり前の景色。その中にある、旅行者を惹きつける食や自然そして人という多様な魅力。

商工会青年部は、上場ファンに喜んでもらえる地域の魅力づくりに貢献していきます。

ちょっとお出かけ

肥前町の春は、花も満開

いよいよ春到来。うららかな日差しの下で、花も見ごろを迎えます。3月下旬から4月にかけては桜が開花の見込み。肥前町の桜の名所といえば、玄界灘を見晴らし天気が良ければ対馬までをも眺望できる「遠見番所公園」や、棚田の中に咲き誇る「大浦の一本桜」。どちらも冬の寒気の後の暖かさで、つぼみがすっかり膨らんでいます。

4月1日から5月31日までは「ぼたん緑の丘」が開園。100種2000株のぼたんは九州でも最大級の規模を誇り、開園期間の後半に咲く芍薬は30種3万本が目を楽しめます。期間中は園内で地元産品の販売やイベントなども予定しています。詳しくは左記にお問い合わせください。

ぼたん緑の丘
遠見番所公園の桜

●お問い合わせ
ぼたん緑の丘公園事務所
TEL 0955-53-2032

唐津市肥前市民センター産業・教育課
(遠見番所公園・大浦の一本桜)
TEL 0955-53-7145

九州電力からのお知らせ

玄海3、4号機の特定重大事故等対処施設(テコ対策施設)が完成しました。

特定重大事故等対処施設(テコ対策施設)は、発電所へ故意に大型航空機を衝突させるなどのテコ行為によって、燃料が入っている原子炉を冷やすことができなくなった場合に備えて、放射性物質を閉じ込める機能を持つ原子炉格納容器の破損を防止するための施設であり、発電所の安全性と信頼性を一層高めるものです。具体的には、原子炉を冷やすためのポンプ、水源、電源設備などを備えています。

同施設が、3号機は昨年12月5日、4号機は今年2月2日にそれぞれ完成し運用を開始しました。

今後とも、発電所の安全性・信頼性の向上に向けて安全対策の充実・強化に取り組み、地域の皆さまに安心・信頼していただけるよう、発電所の運営に努めてまいります。

佐賀県・福岡県・長崎県主催の原子力防災訓練に参加しました。

2022年10月29日、佐賀県・福岡県・長崎県主催の原子力防災訓練が実施されました。当社においても、本店や玄海原子力発電所に対策本部を設置し、住民の皆さまの避難判断のための通報や発電所の事故収束などの様々な訓練を実施し、緊急時対応の習熟に努めました。

今後とも、訓練を積み重ね、安全を第一に、原子力防災対策の向上にしっかりと取り組んでまいります。

玄海町園児によるサツマイモの収穫体験を行いました。

2022年10月26日、玄海町次世代エネルギーパークあすぴあ内のふれあい農園にて、玄海町のおおば園とふたば園の園児によるサツマイモの収穫体験を行いました。

園児たちは、小さな体でイモを力いっぱい引き抜き収穫すると大歓声を上げ、先生や農園スタッフに嬉しそうに見せていました。



おおば園の園児たち

ふたば園の園児たち

もうすぐ桜の季節！ 2つのエネルギーパークで遊ぼう！

「玄海エネルギーパーク」と、隣接する「玄海町次世代エネルギーパーク あすぴあ」は、クイズやゲームをしながら、エネルギーのことを楽しく学べる施設です。屋外には遊具で遊べる広場などもあり、春になると桜などが美しく咲き誇ります。



スリル満点の遊具で遊べる「太陽の広場」



太陽光で充電しながら走る「ロードトレイン」

詳しくはこちら

◀玄海エネルギーパーク ▶
あすぴあ

※玄海エネルギーパーク内の「九州ふるさと館」は、照明工事のため2023年3月18日(土)まで一時閉鎖しております。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

日本の伝統を身体で学ぶ

入野小学校の「人形浄瑠璃」学習



約400人の観衆を前に、演目「傾城阿波鳴門(けいせいあわのなると)」で浄瑠璃語りを披露。

人形浄瑠璃に縁がある唐津!!
昔は各地で数多く上演されていた

小学校には、「総合的な学習の時間」という学習があります。子どもたちが自ら考える力や学び方を身につけ、問題解決能力を高めることをねらいとしています。3、6年生が、それぞれの地域の特徴や伝統などを生かして学習を進めています。

この学習で、肥前町の納所小学校では校区内の住吉神社や真珠養殖など地域の自然や産業、文化を自分たちで調べ、田野小学校では地区内の増田神社について地元の人に聞き取りをするといった学習に取り組んでいます。

ユニークだなと感じ今回取り上げたのは、入野小学校の「人形浄瑠璃を学ぶ」という学習。唐津人形浄瑠璃保存会の会長・竹本鳴子さんに、毎年3年生がじっくり学んでいきます。

もともと浄瑠璃とは、室町時代から続く日本古来の語り物で、三味線とともに親子の愛情や武士の忠義の悲哀などが語ら



人形浄瑠璃を学んだ入野小3年生の皆さんと指導の竹本鳴子さん(後列中央)。

れ、江戸時代にはそこに人形が加わって人形浄瑠璃が生まれました。かつて娯楽が少なかった時代には、日本各地の芝居小屋や神社などで上演され、広く親しまれてきた芸能です。

唐津は浄瑠璃との縁がある土地柄で、浄瑠璃作家として有名な近松門左衛門の遺髪塚が近松寺(きんしょうじ)にあります。また、唐津には、200年近く前には、舞台公演のできる人形一式があり、数多く上演されてきました。

昔の言葉に苦戦しながらも
みんなで声を合わせる楽しさ

地元にも縁のある伝統芸能を子どもたちにもぜひ知ってほしいと願う竹本さんの入野小学校での指導は、今年で13年目。入野小学校の子どもたちはお兄さんやお姉さんたちの公演を見て「3年生になったら自分たちも舞台に立てる」と楽しみにしています。

昨年は人形浄瑠璃の学習を5月から始



2011年からの始まった入野小の授じ、子どもたちの成長している。



め、10月の公演に向けて毎月2、3回の授業に取り組んできました。難しかったのは、日ごろ使わない言葉の数々です。病気のことを「わずらい」と言ったり、「ありがとうござりまする」などの言い回しだったりも、現代ではなじみがありません。大人は低く、子どもは高めにと、せりふによって発声を演じ分けることにも苦心したようです。それでも全員で息を合わせて、おなかからしっかりと声を出すことが、次第に楽しくなってきたそうです。子どもたちからは「家でも練習してお母さんに褒められた」「テレビの時代劇の言葉がわかるようになった」などの感想が聞けました。

そして10月30日に唐津市文化体育館で開催された公演(義太夫の会)では、約400人の観衆の前で、堂々と披露。観客の皆さんは、子どもたちの熱演に万雷の拍手だったそうです。子どもたちにも大きな自信になったことでしょう。

こうした日本の伝統文化はこれからも若い世代にぜひ継承されてほしいですね。

百済武寧王がつなぐ絆

加唐島で誕生から古代交流

15

白村江の戦いと日本の情勢

今回は白村江の戦いで百済王朝が滅亡したと書きました。このとき日本の情勢はどうだったのか。倭の視点で改めて振り返ってみます。

百済復興をめざす遺臣たちが頼りにしたのが倭国。救援と倭に在る百済王子・豊璋(ほうしょう)の送還を要請したのです。朝廷内では大國の唐と戦う恐れから反対論が多かったものの、救援して百済を復興すれば朝鮮半島での倭の権益を高められる、と要請に応えた齊明天皇は中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)と大海人皇子(おほあまのおうじ)、中臣鎌足(なかとみのかまたり)などの要人と筑紫の国に赴きます。660年12月に飛鳥を出発し、難波から出航。翌年3月に長津宮(ながつのみや)現在の博多港付近)に入ります。その後、朝倉橘広庭宮(あさくらのかたばなのひろのむら)にわのみや/朝倉市)に行宮(あんぐ)を移しますが、7月に齊明天皇が崩御。後を継いだ中大兄皇子は9月に豊璋を5千の兵とともに百済に送り、さらに662年、663年に援軍を送りました。その頃唐・新羅軍は百済軍の本拠地・周留(しゅうりゅう)城を囲み、唐の水軍は白村江に集結。そこに倭国軍がやって来たのです。倭の水



まつろ・百済武寧王国際ネットワーク協議会顧問 熊本 典宏 (唐津市鎮西町)

軍は小舟で、唐は大規模な水軍船団。また、倭には強力な権限を持った統一指揮官が不在でした。倭軍は大敗したのです。

敗戦国となった倭には唐・新羅に侵略される危険がありました。そこで中大兄皇子は対馬、壱岐、筑紫などに防人を置くとともに大宰府の前面には水城を築き、大宰府周辺や瀬戸内海沿岸など西日本各地に山城を築いて唐・新羅の侵攻に備えました。基肆(きし)城や熊本の鞠智(きくち)城もその一つです。667年、中大兄皇子は都を飛鳥から近江の大津宮(おおつのみや)に遷都。翌年に天智(てんじ)天皇に即位しました。

しかし結局、唐の侵略はなかったのです。それは白村江の戦いの後、唐・新羅軍が高句麗を攻めたから。668年に高句麗は滅亡しますが、唐と新羅はその占領した領土の配分で対立。676年に唐は朝鮮半島から撤退し、新羅が朝鮮半島南部を統一します。その混沌とした情勢の中で倭は遣唐使を派遣するなどの唐との友好関係を再築していきます。国内政策では全国規模の戸籍「庚午年籍(こうごねんじやく)」を作成して徴兵制を敷き、官僚による律令制を整備。白村江の戦いは古代日本に最大の危機を招き、その敗戦は中央集権国家の基礎をもたらしただけです。

プロの味を我が家に



鯛のあらの潮汁

- 材料 (2人分)
- 鯛のあら...250~300g (頭や中骨)
 - 水...500ml
 - 昆布(5cm角)...1枚
 - 塩
 - 酒...小さじ1
 - 薄口しょうゆ...少々
 - 吸い口...少々 (木の芽、刻みねぎ、ゆずの皮など)
- 作り方
- 鯛のあらを食べやすく切り、塩小さじ2/3程度を振って30分~1時間おく。
 - ザルにのせて熱湯をかけ回した後、流水でよく洗う。
 - 鍋に水を入れて昆布と一緒に②を入れ、たぎらないように加熱する。沸騰直前に昆布を取り出し、アクを取って、塩少々、酒、薄口しょうゆで味を調える。
 - 椀にあらを盛り、汁をはって吸い口を添える。

肥前市民センターのすぐそばに立つ「灯庵」は、玄界灘や伊万里湾で水揚げされた鮮魚を鮮やかな技で調理すると定評の店。店主の名古屋巖さんは板前歴42年のベテランで、魚の目利きにかけては町内でも一目置かれています。

そんな名古屋さんに教わりたいたいの、魚を最上のおいしさで味わうコツ。鯛の頭や中骨などのあらで作る「すまし汁」を生臭くなく仕上げのポイントを伺いました。



●「灯庵(とうあん)」
唐津市肥前町入野甲1699612
TEL 095515410888